

特別支援教育におけるキャリア教育(3)

—現在の多様な教育課題への解決策としてのキャリア教育の可能性—

企画者	菊地 一文 (国立特別支援教育総合研究所) 内海 淳 (秋田大学教育文化学部) 木村 宣孝 (北海道札幌稲穂高等支援学校) 原 智彦 (東京都立青峰学園)
司会者	菊地 一文 (国立特別支援教育総合研究所)
話題提供者	原 智彦 (東京都立青峰学園) 森脇 勤 (京都市立白河総合支援学校) 田添 敦孝 (東京都立墨東特別支援学校)
指定討論者	木村 宣孝 (北海道札幌稲穂高等支援学校) 内海 淳 (秋田大学教育文化学部)

KEY WORDS : キャリア教育 特別支援教育 教育課題

【企画要旨】

平成23年1月31日、中教審「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(答申)が公表された。本答申では、生涯にわたるキャリア形成を支援する観点から、従来の学校段階ごとの考え方や、教育界、産業界ごとの立場を越えて、各界が一体となって取り組む必要性について、現状分析から具体的方策まで網羅的に提言している。幼児期の教育から高等教育までを通したキャリア教育・職業教育の在り方をまとめた答申は過去に例が無く、施策的にもキャリア教育はさらに重要視されてきているといえる。

また、特別支援教育においても、中教審「特別支援教育の在り方に関する特別委員会(第4回)」の議事にキャリア教育に関するヒアリングが採り上げられ、その重要性は高まっている。学校現場においては、文部科学省研究協力校をはじめ、キャリア教育を研究課題として採り上げる特別支援学校の増加が認められ(菊地, 2011)、キャリア教育の視点による授業や教育課程の見直しや個別の教育支援計画に基づく支援が検討されてきている。特別支援教育は児童生徒一人一人の生涯にわたるキャリア発達を支援する視点から、さらに充実を図ることが求められ、また、目指しているといえよう。

本シンポではこれまで「キャリア教育の本来の意義」や、「教育課程の改善等による学校及び学部間の接続」をテーマに検討を進めてきた。今回のテーマ設定は、昨年度の協議において、キャリア教育の視点が解決策として有効であると考えられる様々な課題等の整理と、キャリア教育研究の体系化が必要であるという提言を受けて企画したものである。本シンポでは、前述の施策的な動向、また学校現場の動向を踏まえた上で、現在、特別支援教育が有しているいくつかの課題を改めて整理し、それぞれの課題に対応したキャリア教育の視点による具体的方策について検討する。

なお、本シンポは、これまで本学会において継続してきたキャリア教育をテーマとする2つの自主シンポの合同企画であり、菊地・木村による「特別支援教育におけるキャリア教育(3)」、また、原・内海による「障害青年のキャリア教育と移行支援Ⅳ」として位置付くものである。

【話題提供の要旨】

進路指導・職業教育の意義を見直し、充実を図る視点から(原)

本校は東京都特別支援教育推進計画に基づき、職業学科(就業技術科)と肢体不自由部門を併置する学校として2009年に開校した。その特徴として、近年の産業構造の変化に対応した新たな職域を想定した4つのコースの学習(専門教科)を設定し、市民講師と教員が協力して学習内容を検討し指導

している。また、コースの学習に対応した短期就業体験を1年次から段階的に実施し、生徒の体験が良好なものとなるよう、受け入れ先事業所連絡会を持ち、趣旨・目的・評価内容等を共有している。これらを通して仕事の理解から職業生活まで含めた生活設計への見通しが持てるよう工夫している。

キャリア教育の視点からこれまでの進路指導・職業教育の意義を見直すとともに、生徒一人一人の様々な役割の充実に向けた取組について事例をもとに報告する。

学校組織や地域との関係を見直し、つなぐ視点から(森脇)

生徒の職業自立を実現するために、企業における実習を中心としたカリキュラムをデュアルシステムとして位置づけ、学校の中で完結しない教育に取り組んできた。さらに、地域の資源活用や高齢者へのサービス活動などを活かした専門教科「地域コミュニケーション」(福祉)を設置し、地域の人の関わりを通して自己肯定感を育み、働く力のベースを育てることをねらいとした地域協働型の学習に取り組んでいる。

キャリア教育の概念のめざすところは、個の能力開発だけでなく環境開発も含めたものである。教育活動全体をキャリア教育の視点で捉え直すことで授業改善や組織機能を見直し、地域との新たな連携なども生まれている。このような事例を通し、学校マネジメントの在り方について報告する。

重度重複障害のある児童生徒の指導・支援を見直し、自立と社会参加を図る視点から(田添)

本校では特別支援学校(肢体不自由)における全ての児童生徒の自立と社会参加の実現を目指し、昨年度よりキャリア教育の視点を中心とした教育課程の検討を進めながら、様々な地域や企業等の教育資源を活用し、重度重複障害のある児童生徒の指導・支援の見直しを具体的に進めている。

特別支援学校(肢体不自由)におけるクロスカリキュラムの体系化を計画的且つ組織的に推進することにより、重度重複障害のある児童生徒の自立と社会参加をめざした教育内容をより一層充実させると考える。話題提供では、キャリア教育研究及びカリキュラム開発の経過について報告する。

【指定討論の要旨】

以上の話題提供を受けて、木村氏と内海氏にはそれぞれの話題提供で示された課題を踏まえ、その背景等の再整理と、解決策としてキャリア教育の視点を採り入れることの意義について意見をいただく予定である。フロアの意見も交えながら、活発に討論を深めていきたい。

(KIKUCHI Kazufumi, UTSUMI Jun, KIMURA Nobutaka, HARA Tomohiko, MORIWAKI Tsutomu, TAZOE Nobutaka)